

第3回新市建設計画策定小委員会

議 事 録

第3回新市将来構想策定小委員会会議録

1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成16年5月25日(火) 午前9時30分
- ・場 所 長岡市役所第3委員会室

2 会議出席委員の氏名

豊口 協	二澤 和夫	大地 正幸	佐々木保男
今泉 實	熊倉 幸男	伊佐 文也	米持 昭次
坂牧宇一郎	高野 徳義	五十嵐 徹	野田 幹男
鈴木 隆三	鯉江 康正	小疇 弘一	阿部 誠一

以上 16名

(欠席委員の氏名)

小方 保 原田 秀樹

以上 2名

3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

長岡地域合併協議会新市建設計画策定小委員会

事務局（北谷）

皆様、本日はお忙しいところお集まりくださいまして、まことにありがとうございます。ただいまより長岡地域合併協議会第3回の新市建設計画策定小委員会を開催させていただきます。

なお、本日この小委員会は小方委員と原田委員が都合によりご欠席となっておりますが、半数以上のご出席をいただいておりますので、規程により会議が成立していることをご報告いたします。

次に、資料の確認をお願いいたします。事前に会議次第、資料1及び資料の2を配付しております。差替え資料として、資料1の10ページ、参考資料(1)、(2)のグラフの2枚セットのもの及び用語説明につきましては、恐れ入りますが、本日お配りいたしました資料をご使用くださるようお願いいたします。

それでは、お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。なお、恐れ入りますが、ご発言の際はマイクを使われますようお願いいたします。

それでは、議題に入らせていただきます。この後の議事進行は、豊口委員長よりお願いいたします。

委員長（豊口 協）

おはようございます。朝早くからどうもご苦労さまでございます。それでは、今日は議題が二つございます。一つは、この間もいろいろとご意見いただきましたけれども、資料の1にあります建設計画の案、計画書です。これにつきましてこの間ご意見をいただいた内容について事務局の方から内容訂正、その他についてご説明申し上げます。その後議題の2でございますけれども、資料の2に基づきまして、今日の内容を進めさせていただきたいと思っております。

それでは、最初のながおか地域新市建設計画の素案、これにつきましてこの間ご意見をいただいた内容を基にして事務局の方から再度ご説明を申し上げたいと思っておりますが、よろしく申し上げます。

事務局（竹見）

おはようございます。合併協議会事務局の竹見と申します。よろしくお願い申し上げます。失礼ながら、座って説明させていただきます。

お手元の資料1をごらんください。ながおか地域新市建設計画（素案）というものでございます。この資料は、今委員長からご説明ありましたように、前回皆様方からご意見いただいた中で、順次よくしていくものであります。前回いろいろご意見をいただいた中で修正をしましてまいりました。まず、5ページからごらんいただきたいと思っております。この序章につきましては、少し難しい言葉もございましたので、表題等も含めましていろいろ修正をかけております。例えば前回不確実性の時代とか、そういった難しい言葉があったりしたものですから、その辺を直したりして、いわゆるそれをチャンスにかえていくとか、そういったもので、例えば6ページをごらんになっていただきますと、「地域を見つめ直し、新しい長岡新市を創ることが必要です」とか、そういった形で言葉を変えております。

それから、8ページにつきましては、こちらは建設計画策定に向けて、建設計画の位置づけ、それをまとめております。それから9ページには、建設計画の構成ということで、第1章から第6章までこういう形でまとめていくということで考えております。

それから、10ページ以降なんですけど、こちらにつきましては、新市の概況からみた可能性ということで、こちらにつきましては、いろいろなご意見いただきましたので、グラフ等を追加したりしております。まず、10ページでございますけれども、こちらの長岡市までのアクセス時間ですが、これは本日の追加資料としてまとめておりますけれども、上の方が道路時刻表から出したものです。それから、下の方がインターネットの地図ソフトで出したものなんですけども、ごらんになっていただきますと、それぞれ町村によってアクセス時間が変わってきているということで、これごらんになっていただいて、どういうものを採用していくかということの後でご議論いただければと思います。

それから、11ページが人口・世帯ということで、年齢の3区分構成比の推移ということで、下のグラフを追加しております。

12ページは特に変えておりません。13ページですけれども、冬の晴天率ということで、長岡市営スキー場の晴天率、15年度実績がございましたので、こちらを追加しております。

14ページ、15ページは、変えておりません。16ページも同じく変えておりません。17ページなんですけれども、本日の参考資料の(1)の方をごらんいただきたいんですけれども、本文の方少し見にくいので、カラーコピーしてまいりました。それから、新市建設計画につきましては、最終的にはカラーでつくっていきたいと考えておりますので、こういった白黒での見にくさについては解消していきたいなと考えております。17ページの中ほどに産業中分類別・事業所数特化係数ということで追加しております。参考の資料の方をごらんいただきますと、青い丸が、これが全国の特化係数を1として、長岡地域がどういう事業所として特化しているかとうことをごらんいただけるかなと思います。6市町村計がオレンジ色の部分で書いてございます。例えば一般機械というのがございますけれども、これが全国よりも特化していると、それとか衣服・その他、それから家具・装備品なんかにつきましても、全国から比べますと特化しているということがうかがえます。

それから、18ページをごらんください。こちらは、小売吸引力の説明をということで、左下の方に説明を加えております。それから、グラフの一番下でございますけれども、6市町村の販売額特化係数ということで、こういったものに特化しているかということをごらんにあらわしてあります。参考資料の方には、カラーで見やすくしております。

それから、19ページをごらんください。こちらがグラフとしては上から二つ目の人口当たり粗生産額です。それから、新市でとれるお米は何年分ということで、年間の1世帯当たりの米消費量を97キログラムとして、6市町村では約17年分、新潟市の人口に換算しますと6年分と、東京都では1年分というこ

とで、新市ではそういった形でお米がとれるということです。それで、1カ所訂正なんですけど、二つ目の四角で、新市で収穫される米は、「東京都で1世帯の消費量」と書いてございますけれども、「東京都で全世帯の消費量の約1年分」ということでご訂正をお願いいたします。

それから、20ページをごらんください。こちらはグラフで上から二つ目のグラフで、刑法犯罪認知件数と検挙率もつけ加えました。そして、下のグラフが渋滞ポイント数と10万人当たりの交通事故数という形で、追加をしております。

21ページは、文章を少し変えておりますけれども、グラフ等は変えておりません。

22ページをごらんください。こちらは、高速道路インターチェンジまでのアクセス時間とそれから下のグラフの観光地規模と観光客伸び率を前回のグラフに対して変えております。

それから、23ページをごらんください。それと今日参考資料の(2)の方、参考資料1をおめくりいただきますと、23ページのグラフをカラーでわかりやすく示しております。前回グラフが白黒で少しわかりにくかったんで、今回ちょっとカラーで見やすくしております。それから、下の地図なんですけども、県内での交流状況ということで、こちらを追加しております。

それから、24ページをごらんください。こちらは、文章の方が本日国際交流の幅が広がりますということで、新潟県における国際交流推進事業のそういう文章を入れておいたんですけれども、もう少し新市のことをこちらの方に記述をしていきたいと考えております。

それから、25ページからなんですけど、前回将来構想の概要を掲載するに当たって、いわゆる任意合併協議会で策定した新市将来構想、この冊子とセットということで考えていきますと、こちらの建設計画の本文にはその概要だけを載せようというご意見をいただきましたので、地域らしさ価値とそれから重点実現項目を新市地域らしさ価値ごとに1ページにまとめております。それが29ページまでとなっております。

それから、30ページ以降なんですけれども、こちらは地域別の整備、活動方針ということで、地域の夢という形で、各市町村ごとに1ページごとにまとめております。それが35ページまで続いております。

それから、36ページをごらんください。こちらは少し図等を用いまして、前回よりもわかりやすくしております。36ページは、新市建設計画策定のプロセス、それから37ページは策定方針の考え方を取りまとめております。二つの視点、地域経営の視点とブランディングの視点、それから二つの価値基準ということで、モチベーション効果と戦略的価値、そして住民の安心感や地域一体感の形成価値、そしてプロセスの明確化と透明性の確保と、そういったものを重視しながら、建設計画の策定方針をまとめてきたということです。それらの視点を38ページと39ページでそれぞれ文章でまとめてあります。地域経営の視点では、市民がオーナーという観点、そしてブランディングの視点では、地域らしさ価値の実現という観点、そして建設計画策定の価値基準では、いわゆるモチベーション効果と戦略的価値ということでまとめておりますけれども、特に今回リーディング事業ということで考えておりますけれども、い

いわゆる小さな成功を積み重ねて確実に地域らしさ価値を高めていくことが重要であるということをごちろの方にまとめてあります。それからもう一つ、戦略的な事業だけではなくて、いわゆる住民の安心感や地域一体感の形成価値というのが非常に重要になってくると。これは、市町村の方でも今まで継続事業がございますけれども、そういった継続事業も大切にして、住民の安心感を高めていくことが重要であるということをごちろの方にまとめてあります。それから、(3)が建設計画策定の留意点ということで、透明性の確保という形で、ごちろの方にまとめてあります。

一応39ページまでで区切っていきたいと思います。

委員長(豊口 協)

どうもありがとうございました。この前の会議でいろいろとご意見いただきました内容について、事務局の方でよりわかりやすくなるように訂正、その他をしてもらっております。特に今日は差替えの資料が入っておりますけれども、例えば10ページの差替え、時間の問題ですが、長岡市中心までのアクセスの時間ということで、これがいろんな形で時間的な統計というのは出てくると思うんですけども、先ほどもちょっと事務局で話をしていたんですが、実際長岡市へ合併協議会始まりましてからずっと来ていただいております、実際のかかっている時間というのはよくわかっているということで、その実態を表記したらどうかというふうなことまで言われておりましたけれども、そういうことでこの辺の数字一度ご確認をしていただければという気がします。これはよろしいですね。

「異議なし」という声あり

委員長(豊口 協)

それから、ずっとページが進みまして、17ページ、これもカラーで表記されました資料が今日お手元に配付されておりますけれども、カラーで表記しますとわかりやすくなりますので、これでご判断をいただきたいと思います。

18ページの一番下の6市町村販売額の特化係数の新しい図が入っております。それから20ページ、下の2段のところに新しい数字、その他データが入っております。それから、別紙の追加資料でございますが、23ページ、これもカラーで表記されておりますが、こうしてみますと、非常にわかりやすくなっている感じがいたします。

それから25ページ、これも追加資料がありますけれども、29ページまでこういう内容でまとめたということになります。この資料は、前回いろいろご意見をいただきながら整理をしていくことになりますけれども、今日の事務局の説明について何かご質問、ご意見がありましたらお受けしたいと思います。

お願いいたします。

委員(鯉江康正)

まず、17ページの資料でございますが、特化係数という用語がぼんと出てくるんですが、一般市民の方の場合には、ちょっと危ないというか、よくわからないかなという感じがするんで、特化係数の定義

は載せておいた方がいいかなと。

それと、同じページなんですけど、これ製造業だけがレーダーチャートになっていますけれども、それ以外の産業もあるので、産業大分類でも一つ載せておいた方がいいんじゃないかという気がしています。というのは、農業や商業を全く無視しているのかということになりかねませんので、ちょっとその辺で危惧をしました。

それと、23ページでございますが、右側の下で表で、凡例のところは県内市町村から6市町村への出向率となっていますが、本文は通勤通学流動という言い方をしていますので、これ出向というのは何か違う意味でとられそうですから、通勤通学率と人口に通勤通学割合とか、そういうふうな形の方が多分誤解を避けられるんじゃないかというふうに思います。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。事務局いかがですか。

事務局（竹見）

直していきたいと思います。

委員長（豊口 協）

じゃ、資料の追加、その他検討させていただきたいと思います。ありがとうございました。

ほかにどこか、お願いいたします。

委員（小嶋弘一）

前回欠席しまして、そのとき話が出ているかどうかわからないんで、失礼するかもしれませんが、5ページから高度化という言葉が随分出ていまして、「自治体にいっそうの高度化が求められている」、「対応力強化と高度化が不可欠になっている」、6ページにいきますと、一番下に「住民満足を高めるための手法は高度化している」という、その高度化というのは非常にあいまいな感じで何を言っているのかちょっとよくわからないというところがあって、これはかみ砕くと例えばもっときめ細かな対応が必要になっているとか、あるいは新しい視点が必要になっているとか、そういうふうに解釈してよろしいのかどうかということが1点と。

それから、7ページの「住民本位の新しい地域経営が求められています」ということで、確かに住民参加というのは非常に大事なことかと思いますが、何でもかんでも住民ということではなくて、ここで大事なのは、行政と住民の役割をきちり明確にした地域経営が求められるんじゃないかと、そういうことを言っているのではないかなという感じがしまして、その他についても事務局のお考えをお聞きしたいと思います。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。これは7ページのところは、次のところに行政と住民の関係や、地域経営

においても新しい考え方に基づく変化が進んでいる。いわゆるもう少し詳しくということになりますか。

委員（小疇弘一）

急に行政でなければできないということはあるだろうという感じがしまして、それを明確にすべきだと。今のところ何でもかんでも住民の意見を求めながらやらないと物が進まないというような状況なんです、それは少し違うところもあるんじゃないかというような感じがしています。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

事務局いかかでございますか。

事務局（竹見）

地域経営ということで、最近いろんな社会状況の変化の中で、行政もスタンスを変えなくちゃいけない。それから、住民の方々からもいろいろ参画していただくということで、それと新しい観点でももう少しこの辺はまとめていきたいと考えております。

委員長（豊口 協）

あと高度化という言葉ですけれども。

事務局（竹見）

高度化についても、これだけ社会状況が変化しておりますので、ちょっとその高度化という部分が少しわかりづらいということで、もう少しこの辺はわかりやすく表現していきたいと思っています。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

ほかにございませんか。

お願いいたします。

委員（阿部誠一）

何点かあるんで、順次お願いしたいと思えますけど、まず6ページの(3)の「地域を見つめ直し、新しい長岡新市を創ることが必要です」というふうに書いてあるんですけども、その説明文の上3行なんですけども、上3行のまず最初の行の最後の方なんですけども、「住民満足を高めるための手法」という言葉を使っていますけども、これは何を指しているのかという点がいまいよくわかりませんし、それからそれに続く「住民は市町村の枠を越えて自らのニーズを満たそうとすることから」と、この意味が住所を変えることなのかということがちょっと疑問に思いますし、もしそういうことなら、多少そういう点の一部の人はあるかもしれませんが、大勢になっているとはとても思えないという感じもします。

それから、この(3)の一番最後のところなんですけども、「自治体形成、財源形成」という言葉を使っていますけれども、財源形成という言葉はちょっと聞いたことがない言葉で、これは財源形成とい

うと、新税をつくるのかというようなイメージに受け取るんですけども、単に財源調達なのかという感じをしないでないというところなんで、どんな感じかなというふうに思っています。

それから、11ページなんですけども、(2)の人口・世帯なんですけど、そのこの表題の一番上に書いてあります言葉、三つ目のひし形の最後です。「高齢化が穏やかに進行していることが伺えます」というふうに書いてございます。同じく12ページのところにも同じような言葉が書いておまして、(3)の人口動態の見通しのひし形の二つ目なんですけども、「高齢化の進行については、新潟県や新潟市に比べて進展が早く」という言葉が使われていますんで、このこのページと前のページの記述の仕方がちょっと紛らわしいかと。前のページの言い方は、例えば最近では高齢化も進行が鈍化しているとかというような言葉になるのではないかという感じがしています。

それから17ページ、新市の競争力なんですけども、私この新市の競争力、全体見直してみまして、全体的に言えるのは、現状に対して評価が書いてございます。例えば一番最初事業所の推移では、減少率は小さいというのが現状でございますし、それに続く全国的な低迷の中で企業努力が図られて、健闘していますというのが評価の部分になっているわけですけども、この評価の部分全体としてバラ色になっておまして、果たしてこういうバラ色のことだけでいいのかと、これ全体的な印象です。もう少し問題点もあるのではないかという感じがしていますんで、問題点も書いていただいた方もいいのかなと、新市の競争力全体についてそう思っています。特に余りいいことだけを書いておくのは問題なんで、当然問題点もあるんで、いい点と問題点を並列して書いていただくようなことを考えていただいた方がいいのではないかというふうに感じています。

それから、記述の仕方がどうも一部整合性がとれていないかなという点のことがありますんで、申し上げてみたいと思うんですけども、一番最初の「立地を活かした積極的な活動が行われています」というふうに書いておまして、前段では「事業所数の減少率は小さく、全国的な低迷の中で、企業努力が図られ、健闘しています。」という評価になっているんですけども、その何行か後に同じ黒い四角の中で最後です。「事業所数の減少は、一概に産業の不振を表すものではありません。」という言い方になっておって、この辺ちょっと整合性がとれていないという感じがしております。

それと同じように、次の「新市の製造業は多様性が高く」という言い方になっていますけれども、果たしてここに書いてありますとおり、「多分野で特化状況が高く」、これは確かにこうだと思んですけども、そこで多様性の高さが見てとれるという言い方になっているんですが、果たしてそこだけで多様性という言い方になるのかという点が非常に疑問に感じます。

それから、18ページの「新市の商業ポテンシャルは、」というふうに書いてありますけれども、この場合の商業ポテンシャルというのは何を指しているのかというのがいまいちはっきりいたしません。小売業1店舗当たりの販売額が高いと商業ポテンシャルが高いという結論になるのかどうか。そういう評価になるのか。そこの関連性はどうかと思います。1店舗当たりの販売額が高いということにな

れば、大規模店が多いというようなことは言えるかと思うんですけども、そこから商業ポテンシャルが高いというような結論を導き出していいのかという感じがしますし、特にここの商業ポテンシャルは非常に高い可能性を持っていますという言い方になっていきますけれども、現状の長岡市の商業の状況を見ていると、必ずしもそういう現状にもなっていないという実感をしていますんで、果たしてこういう言い方になるのかということを感じています。

それから、同じところにこれ上越市と比較して書いておりますけども、ほかでは新潟市との比較で書いている部分が非常に多くなっているんで、なぜここが上越市と特別に比較をしているのかという、そういう整合性の問題が一つひっかかっています。

それから、21ページのボランティアの養成講座の15年度予定が26回になっていますけども、長岡では26回なんですけど、これ小国を足すと30回になるかということなんです。一番上のボランティア養成講座の棒グラフと一番下の施設ボランティアの実施状況の一番右側のボランティア養成講座の欄がございいます。ここはどうも整合性がとれていないのかなという感じがしていますが、これどうなのでしょうかということなんです。

それから、ちょっと戻っていただきまして、20ページの「環境に対するやさしさは平均以上、住民主導の取り組みも進んでいます」という言い方になっていまして、これはNPO法人の地域循環ネットワークのことが書いてございまして、最終的な評価は循環社会の構築に向けての積極的な活動が住民主導で行われていますという評価になっているんですけども、このネットワーク以外の活動があるのかどうかという点が非常に疑問に思いますし、この1件のこういう記載だけで循環型社会の構築が住民主導で行われているという評価になっていますが、果たしてこれでいいのかという感じをしております。

それから、済みません。また戻っていただきまして、19ページ、真ん中の四角の部分で、「新市で収穫される米は、東京都で全世帯の消費量の約1年分です」というところで、後段の方で「年間で約485万世帯の食卓に供給できる量です」という、485万世帯がこれ正しいのかどうかということをやっと確認をしていただきたいと思うんですけども、本県の世帯数は約80万世帯数になっておりますから、その6倍もの世帯数を賄う米が新市で収穫されることになるのかというのがいまいち疑問に思っています。

以上。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。非常にそれぞれのポイントを指摘していただいて、問題点がたくさん出てきているわけでありまして、今日この委員会で一つ一つこれ俎上に上げて議論していきますと、非常に時間が足りなくなります。改めて事務局の方と今ご指摘いただいた内容につきましては、これから精査をしてみまして、次回の委員会のときにその内容についてお答えをしたいと、こう思いますが、よろしいでしょうか。

委員（阿部誠一）

はい。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

今ご指摘いただいた内容は、数字的な問題と言葉の問題と、これ一般の人が読んでいったときにそれぞれ別の理解をしたり何かしますと、混乱を招くおそれもあるようなところもご指摘いただいておりますので、大変貴重なご意見だと思っております。

ほかにございませんか。

お願いいたします。

委員（鈴木隆三）

表の中では、新潟市というものの比較が出ていますけれども、それが例えば18ページのところでは、真ん中のグラフですと、合併前と合併後という二つに分けている。ほかのところは新潟市という形で、ここだけ合併前と合併後というふうに書いてありますけれども、簡単にわかりやすくするには、例えば統一した方がいいのじゃないかなという気が、ここで合併前と合併後に18ページで分ける意味合いというのがあるのかなという気がいたしました。

以上です。

委員長（豊口 協）

グラフ等で比較する場合の対象、相手につきましては、できるだけ統一をして、わかりやすくしていくようにしたいと思います。ありがとうございました。

ほかにございませんか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

それでは、この計画書、これはこれからもいろいろとご意見をいただきながら精査していかなきゃいけない内容になっておりますので、次回も続いてまたいろいろとご意見をいただきたいと思います。

それでは、次の資料2に基づきまして、新市建設計画登載事業の整理について、これ事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局（竹見）

続いて、事務局からご説明をいたします。お手元の資料に新市建設計画登載事業の整理について、こちらをごらんください。

1枚おめくりいただきますと、こちらの2ページから始まっておりますけれども、まず1番として、登載事業整理作業の流れということで、上の方に今までの作業の流れをこちらの方に掲載をしております。左から各市町村から登載事業の調書を提出していただきまして、それを分科会で対象事業選定、そ

れから事業区分等を整理しながら、企画、総計、それから合併担当のワーキンググループの方で検討を
してまいりました。本日お出ししている資料なんですけれども、まず一つは、各分野の戦略方針を検討
して、それをワーキングでまとめてきたと。それからもう一つは、その戦略方針に基づきまして、事業
をその戦略方針ごとに取りまとめているということでございます。

それから、2番ですけれども、建設計画書への事業登載の基本的な考え方ということで、策定方針の
ところでご説明を申し上げますけれども、若干の修正をさせていただきます。まず、1番の戦略的事業、根
幹事業の中核ということで、新市将来構想の実現に向けた事業ということで、こちらについては特に訂
正をしておりません。こちらは、将来構想の地域らしさ価値を高めるために、市民、行政が一体となっ
て進めていくべき事業であるということで、こちらはリーディングプロジェクト、成功を積み重ねてい
くと、そういったものの事業を考えていったらどうかということでご提案申し上げたものです。2番の
生活基盤整備事業、こちらについては、市町村リーディングプロジェクトということで書いてございま
すけれども、こちらのナショナルミニマム事業につきましては、時間を区切って取り組んでいくもの
ではないと。いわゆる継続性を持って行っていくということで、リーディングという考え方はこちらの方
からは今回は抜いております。それから、3番の合併に伴い必要となる事業でございますけれども、こ
ちらも当初リーディングという考え方があったんですけども、こちらは何かを統合的にやるというより
も、合併後できるだけ早期に取り組んでいくという位置づけのものでございますので、こちらもリー
ディングという考え方は抜いております。

それから、3ページでございますけれども、3番は建設計画登載事業の整理状況ということでまとめ
ております。新市の根幹事業として三つ、戦略的事業、ナショナルミニマム、そして合併に伴い必要と
なるということで、こちらのワーキングの方で合併担当、それから企画、総計のワーキングの方で取り
まとめたものをお示ししております。戦略的事業につきましては、分野別の分科会で戦略方針を出した
ものを取りまとめて、ワーキングの方で地域らしさ価値、そして重点実現項目ごとの戦略方針としてま
とめました。そして、ナショナルミニマム事業については、分類キーワード、それから合併に伴い必要
となる事業も分類キーワードでまとめております。それぞれ各市町村から提案していただいている事業
を分野別分科会で整理したものを政策展開のポイントとしてそれぞれの事業ごとに取りまとめてまい
りました。以下、3ページの下から戦略的事業という形で取りまとめております。

それから、先ほどの資料1の41ページ以降になるんですけども、こちらが戦略方針という地域らし
さ価値ごとに取りまとめております。こちらの一覧表になってございますので、あわせてごらんいただ
ければと思います。

それでは、資料2の3ページの戦略的事業からご説明をしていきたいと考えます。まず、戦略方針で
ございますけれども、いわゆる地域らしさ価値がありまして、その重点実現項目を実現するために、い
わゆる対象とやるべきことをこちらは鮮明にしております。そして、そういった鮮明のいわゆる行動的

な指針から右の方にリーディングとして取り組む施策のポイントとして、各事業を取りまとめたものをこちらの方に整理してございます。

まず、地域らしさ価値、独創企業が生まれ育つ都市です。まず、重点実現項目としては、新ながおかが誇る技と人をネットワークする匠の国を創り上げる。戦略方針の1として、行政が関連団体とのコーディネート役を担い、「技術」「人材」等のネットワークを構築する。そして、右の方にリーディングとして、取り組む施策のポイントということで、こちらが地域産業のブランド力強化、これはこちらが地域資源ブランド化に向けての調査研究等を行っていくと。例えば錦鯉産業というのも非常に独創企業という形で位置づけられておりますので、そういったものを調査研究していこうということです。それから、日本版ジョイントベンチャーネットワーク形成ということで、産業界、それから大学、民間研究機関あるいは商工会議所等のネットワーク形成に向けた支援を行っていくということです。それから、失礼しました。少し聞きなれない言葉がありますので、今回用語説明として、1枚のペーパーとしてご用意いたしましたので、こちらをあわせてごらんいただきながら進めていきたいと思っております。

それから、戦略方針の2です。こちらが長岡のいわゆる新技術や高付加価値製品の開発につながる機会創出や環境整備を行うということで、リーディングとして取り組むポイントですけれども、テクノ・コミッションの創設ということで、フィルム・コミッションという言葉はお聞きされていると思うんですけれども、そのいわゆる技術バージョンだということで、いわゆる市全体を産業技術の実証実験の場として、積極的に提供していったらどうかと、そういった手続もスムーズにいくようなそういった事業に取り組んだらどうかということです。それから、企業へのマーケティング活動の推進ということで、こちらはとかく誘致企業に対してはするんですけれども、もっと地域内に立地する諸企業に対するマーケティング活動を事業化していったらどうかということで、いわゆる面倒見のいいまちにしていける必要があるんじゃないかということです。

それから、戦略方針の3です。高速大容量情報通信網の強化など、産業地域としてのインセンティブを高めるということで、リーディングとして取り組むポイントですけれども、いわゆるSOHOオフィス拡大による企業集積促進ということで、いわゆる高速通信網を備えたインキュベーション施設、SOHOオフィスの提供あるいはその下にありますような産業のいわゆる高度化に寄与する情報基盤の内容、その導入方法について調査促進というのはどうかということで、新市にはいろんな工業団地がございますので、そういったところで産業の高度化の調査をしていったらどうかということでございます。

それから、4ページをごらんください。こちらが重点実現項目の2の新しいビジネスモデルでmade in NAGAOKAの魅力を世界に発信するです。戦略方針の1がビジネスモデル開発を促進するための行政の支援機能の発揮と産学連携などの体制整備を図るということで、例えば地域資源を活用した環境ビジネスの育成、振興ということで、新エネルギー技術の開発あるいはビジネスモデル化支援をしていくということです。

それから、戦略方針の2ですけれども、価値創造型産業都市NAGAOKAとしてプロモーション活動の推進を図ると。リーディングとしては、新エネルギー、クリーンエネルギーの導入促進ということで、下にございますようにいわゆるクリーンエネルギー自動車、天然ガス自動車などの導入促進を図っていったらどうかということで、天然ガス自動車につきましては、世界で今200万台ということで普及しているそうですけれども、そういった天然ガスという地域資源を生かしていったらどうかということです。

それから、重点実現項目の3ですけれども、市民チャレンジャーの成功と雇用を支える新たな起業促進の風をおこすと。戦略方針として、ベンチャー企業やNPOなどを含む新たな雇用を創出する起業家への支援強化を促進するという事です。いわゆる新たな手法による中小企業融資制度の構築ということで、今までとは違った新たな視点で融資制度を設けたり、あるいは市民の起業家創出に向けての支援促進、いわゆるニッチな市場をターゲットとして、企業家の成功モデルを構築していったらどうか。いわゆる他者が余り進出しないところをもっと成功するような形で支援していったらどうかということです。

それから、5ページです。重点実現項目4の未来のエジソンを生む人材教育・人材育成の推進ということで、戦略方針の1としましては、自分探しを模索できる機会を提供し、開拓者精神と自立心の醸成を図る人材教育、アントレプレナー教育などの仕組みづくりを行うということです。リーディングとしましては、いわゆるまちづくり、ものづくり人材の育成、長岡デザインフェアにおける産業教育の促進やそれから地域の歴史、文化を通じた体験重視のプログラムをつくっていったらどうかということです。それから、アントレプレナー人材教育カリキュラムの研究開発ということで、これは世界的に言えばフィンランドとか、イギリスでは小中学校の必須科目になっているということで、こういったものを取り組んでいったらどうかということです。

それから、戦略方針の2です。再学習機会の創出など、どの年代層からでも産業革新に貢献できる人材を育成する社会人システムを構築するという事で、いわゆる就職して再就職の機会があったとしても、なかなか次につながらないということもありますので、それを解消するという事で、リーディングとしましては、ながおか市民大学の拡大をしていったらどうか。それから、いわゆる伝統の技、人の育成ということで、新ながおかには伝統産業がございまして、酒蔵とかございまして、そういったところに研修者の受け入れ態勢を整備する。あるいは既往の学歴枠を超えた社会教育システムの構築をするために活動推進をしていったらどうかということです。

それから、元気に満ちた米産地です。重点実現項目の「新ながおか元気印ブランド」の創造による「食の付加価値」の確立ということで、戦略方針の1としては、「元気印＝健康とおいしさ」という長岡農産物のブランド力を支える農家、生産組織の意識喚起や土づくり活動などの推進を図るということで、いわゆるリーディングとしましては、特に安全、安心な食を提供する環境づくりということで、特にBSEとかで、非常に今食に対する安全性が危惧されていますけれども、栽培履歴の促進あるいは土壌と

か、水質診断、そして土づくりの促進をしていくということです。それから、新たな農業経営アグリチャレンジへの支援強化を図っていくということで、特に農業版のプロ養成講座を展開していったらどうかということです。

それから、戦略方針の2です。こちらが長岡特産農産物の元気印＝健康とおいしさというブランド力の強化活動を行うということで、いわゆるブランド化への意識醸成とか、ビジョン、行動プランの策定等を行っているということです。

それから、6ページをごらんください。こちらが重点実現項目の2のおいしさと安全・健康をキーワードとする「新ながおか料理」の発信ということで、戦略方針の1としましては、地元食材を活用した長岡でしか味わえない新しい郷土料理や健康メニュー、特産品の開発を行うということです。料理につきましては、長岡野菜とかがありますけども、野菜の生産量が少ないということもありまして、こちらの方に来ていただいて食べていただくメニューを開発していったらどうかということで、新ながおかメニュー・もてなしのプログラムづくりということで、駅弁開発等も調書として上がっております。それから、女性パワーを活かしたアグリビジネス創出支援ということで、女性の感性を活かしたそういった観点で行っていったらどうかということです。

それから、戦略方針の2でございますけれども、地産地消などを体系化し、安全・健康食材生産地域としての“ながおか”を発信するというところで、リーディングとしましては、まごころを感じる食材生産地域づくりということで、学校給食への地元食材をもっと導入促進していったらどうかということで、提供者の組織化等も考えていこうということです。

それから、重点実現項目3です。蛩が舞い、人の豊かな営みが展開する「食」「農」のユートピアを生み出すということですが、戦略方針の1としましては、潜在的な地域資源の宝庫である農村や中山間地域に対する意識の醸成と、農産物生産の人材ネットワークシステム形成を図るということで、いわゆる中山間地域あるいは農村に対する意識の醸成を図っていこうということです。例えばリーディングとしては、休耕田・荒廃地の活用促進、それから今回調書が多かったんですけども、いわゆる生ごみあるいは堆肥プラント等のこういった整備を考えていったらどうかということです。それから、集出荷貯蔵施設整備促進あるいは農業・農村の活性化に向けた環境整備を促進していくということです。

それから、戦略方針の2です。大都市圏からの来訪者受け入れ体制を整備し、来訪者を含めた地域全体で進める環境・景観保全活動の仕組みづくりを行うと。リーディングとしましては、里山再生による環境や景観保全活動の仕組みづくりを行うと。交流活動を通じて里山の管理を行っていったらどうかということです。

それから、7ページです。こちらからは、世代がつながる安住都市ということで、「生きる楽しみ」「育つ喜び」が実感できる生活環境の創出ですが、戦略方針の1といたしましては、市民の声や想いを集める仕組みや地域社会などの情報収集・情報交換の仕組みを確立するというところで、こういっ

た生きる楽しみとか、育つ喜びを実感するためには、市民の声が大切であるということで、リーディングとしましては、こういった市民マーケティング事業の展開、これは市民同士となる地域づくりを行うために必要であるということです。それから、開かれた市議会の設置ということで、インターネット、場合によっては携帯からも見れるような形でライブ配信システムを構築していったらどうかということです。それから、各マスタープランがありますけれども、いろんな市民参画の仕組みを行っていったらどうかということです。

戦略方針の2です。市民と行政の協働運営によるコミュニティの創出・育成を図るということで、こちらのリーディングとしましては、公共サービス民間開放の研究・開発ということで、昨年9月に法律改正されましたので、もっと民間開放というそういった道があるということで、こちらも考えていったらどうかということです。それから、合併後特にコミュニティが非常に重要ではないかというご意見がありまして、市民と行政の協働運営によるコミュニティの創出・育成を行っていくと。特にコミュニティ創出のために行政が支援強化を図っていくということです。それから、NPOを支援するNPOの設立の促進ということで、NPOそのものを支援するそういったNPOの設立に向けた人材の開発促進を行っていくということです。

それから、「元気に老いる」熟年力を活かしたまちづくりの推進でございますけれども、戦略方針の1として、コミュニティスポーツや介護予防の推進など、元気に老いるために社会人が健康づくりしやすい環境を整備するということです。特に社会人が将来的に元気に老いるために社会人にターゲットを当てたということです。リーディングといたしましては、健康な地域づくりの強化・推進ということ、それから介護予防の強化ということで、特にパワーリハビリテーション等も開発していったらどうかということです。

それから、戦略方針の2です。熟年層からの職業意識形成や熟年の経験を生かした活動場所づくりなどによる高齢者ライフの活性化を図るということです。リーディングとしましては、伝統文化継承あるいは熟年力を活用したシステムの構築ということで、こちらに書いてございます。それから、利便性向上による生涯学習機会の拡大ということでまとめてあります。

それから、8ページをごらんください。こちらは地球を想う「未来人」育成・発信地域の創出ということで、戦略方針の1としましては、小・中学生の才能を地域で伸ばす仕組みづくりと活動を強化するということです。いわゆる青少年の体験型学習への取り組み、特に地域資源を活用した拠点とか、施設の整備を展開していく。それから、米百俵の精神を生かした教育環境づくりということで、教育特区取得など、そういったものに挑戦していったらどうかということです。

それから、戦略方針の2です。若年層の豊かな発想を社会に反映させる仕組みづくりを行うということで、若年層の社会参加意識の向上をしていったらどうかということです。こちらに書いてございますように、空き店舗とか、オープンスペースを活用して、若者のまちづくり大学等の開設あるいは駅周辺

の市街地のにぎわいを創出していくということです。

それから、3ですけれども、伝統文化継承・発信し、未来人を育てる文教都市づくりを推進するということです。こちらは、地域の歴史・文化を発掘・保存・発信する新たなシステム構築ということで、下に書いてございますように、地域に散在する情報とか、資料収集による地域デジタルアーカイブ事業の展開ということで、合併によっているんな各市町村にお宝といたしますか、いろんな貴重な情報がございませけれども、これをデジタルでまとめていつでもこれを子供たちにわかるように残していったらどうかというものです。それから、図書館ネットワークシステムの構築ということ、それから将来の地域づくりに向けた電子地図情報システムによる人々の声や思いの保存ということで、電子地図情報システムというのは民間でもかなり開発されていますけれども、そういったものを応用して、地域のそういった空間地理情報にいろんな人の思いを書き込んでいけるような、双方向の蓄積型のデータベースをつくっていったらどうかということです。

それから、9ページですけれども、「子育て・教育」の分野で日本のモデル地域となる「21世紀の米百俵プログラム」の開発・推進と。戦略方針の1として、米百俵の精神に基づく地域住民による地域学校教育プログラムの開発と実践を行う。リーディングとして取り組む施策のポイントとして、コミュニケーションを重視した地域学校教育プログラムメニューの開発ということですが、これからますますグローバルな時代になってくるわけですが、そういったコミュニケーションをこれから重視していく必要があるのではないかとということで、こちらに書いてございますように、地域の方々と一緒になったコミュニケーション、教育プログラムの開発をしていくということです。それから、「米百俵の精神」普及・啓発事業の強化ということで、大学進学への奨学金とか、留学生派遣を強化していくということです。

戦略方針の2ですけれども、安全・安心な子育てを追求する環境づくりを行うということで、リーディングとしましては、子育て支援機能の強化とか、あるいは子どものからだを丈夫にする食生活向上施策の展開ということで、子供のうちから体を丈夫にしていこうということで、市費学校栄養士を専任的に配置していったらどうかということです。それから、通学路の安全性向上ということで、安全、安心な子育てのためには、歩道除雪路線を延伸して、冬の通学路の安全を確保していったらどうかということです。

それから、10ページですけれども、こちらが世界をつなぐ和らぎ交流都市です。地域資源を活用した新ながおかコンベンション・シティの創設ということで、戦略方針の1としましては、新市の伝統や地域資源を活用した特色あるふれあい交流活動を追求する。いわゆるリアルコミュニケーションの追求ということで、リーディングといたしましては、地域資源や地域固有のまつりを活用した誘客促進ということで、各地域にはいろんな祭りや地域資源がございます。そういったものを活用して誘客を促進していったらどうかということです。それから、地域の資源、人材活用によるもてなし体制・基盤の強化とい

うことで、特に地域を案内する地域の達人、いわゆるインストラクターを組織化していったり、それからネットワークづくりから活動拠点である施設整備等へ展開していったらどうかということです。

戦略方針の2です。民間活力や様々な人材を活かしたコンベンションの仕組みを強化ということで、長岡のコンベンションのそういったポテンシャル、リーディングとしましては、コンベンションリサーチ事業の推進、それから発信するというので、ものづくり技術や製品などを情報発信していくということで、企業データベースあるいは市の産業政策などを発信していくということです。

それから、11ページですけれども、すべての市民が「新ながおか親善大使」ということで、戦略方針の1としましては、住民の地域に対する愛着、意識形成とそれに基づく市民レベルの交流の活性化を促進するというので、リーディングといたしましては、新ながおか魅力発見イベントということで、長岡のまち発見ツアーあるいはツール・ド・NAGAOKAなど独創的なイベントを企画実施する。それから、地域資源としての身近な信濃川としてのイメージづくりということで、もっと信濃川を活用していったらどうかということです。それから、市民交流ネットワークの強化ということで、公民館の連携によって、各地域の資源を発掘するとか、あるいはホームステイネットワークづくりを支援していったらどうかということです。それから、国際交流市民会議の設置ということで、外国人の方もいらっしゃいますので、そういった国境を越えた市民の交流、意見交換の促進をしていくということです。

それから、戦略方針の2でございますけれども、青少年活動を通じ“世界”へ“nagaoka”を発信するというので、リーディングといたしましては、子ども親善大使の育成ということで、環日本海東南アジア子ども会議あるいはテレビ電話システムを活用して、子供たちと外国の子供たちと会議をできるような環境を整えてやったらどうかということです。

それから、「暮らしたい」「働きたい」「遊びたい」・・・魅力あるまちを目指すということですが、戦略方針の1としましては、にぎわいを創出するための柔軟なまちづくりの仕組みを開発すると。市民活力を誘発する社会資本整備ということなんですけれども、特に規制をある程度考え、いろんな規制があるわけなんですけれども、それをある程度緩和することによって、いろんなことができるんじゃないかということです。そこで、リーディングとしましては、いわゆるこれもワーキングのメンバーからいろんなご意見をいただきましたけれども、新市のシンボルとなる長岡駅周辺市街地の開発を促進していくべきだろうということで、いわゆる新市の顔としての駅周辺景観整備あるいは中心市街地における各地域の情報発信、それからもっと民間活力を利用して、民間企業の立地ニーズ調査あるいは新たな立地促進を開発していったらどうかということです。

それから、戦略方針の2です。市民参画による地域資源を活用した市民が愛着と誇りを持てる景観形成の仕組みづくりを行うということで、リーディングといたしましては、市民参画による地域固有の景観の発見あるいは地域分析、研究組織づくりということで、景観や歴史物など新たなそういった地域価値を地域の人々が発見して活用を促進していくと。それから、景観・街並み形成、保全活動の促進なん

ですけれども、雁木の街並みあるいは中山間地域の休耕田や荒廃地を活用していったらどうかということです。

11ページで区切りたいと思います。今ご説明いたしましたのは、1ページに戻っていただきたいんですけれども、新市の根幹事業の一番上の1番の戦略的事業、いわゆる根幹事業の中核となるものです。その中のリーディングプロジェクトとして今考えられるものをいろんな提案事業調書の中から取りまとめたものを今お話しさせていただきました。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。今説明を聞いておられて、任意協議会の場でいろいろと市民の方々からご意見をいただいた。ワーキングショップ等で議論をしていただいて、いろんな新しい市に対する期待というか、希望というか、そういう声がたくさん上がってまいりまして、それを小委員会等で整理をし、かつ協議会でご報告を申し上げてきた。それをもう一度整理をして、基本的な施策の展開をここで図っていこうということになります。今三つの柱がございますけれども、それぞれの柱に基づいた戦略方針、ストラテジーをはっきり決めておきませんと、具体的な施策の展開というのはなかなか難しくなってくるということで、今日は特にこの戦略の方針、例えば3ページでありますと、地域らしさの価値の独創企業が生まれ育つ都市、この中の 1、新ながおかが誇る技と人をネットワークする匠の国を創り上げるとい言葉、キーワードがありますけれども、これをどうするかということの戦略方針が三つ上がっているわけでありまして。この戦略方針の内容を一応ご確認いただいていくと。さらに、リーディングとして取り組む施策のポイントにつきましては、いろいろこれから多様な角度からまたご意見等が出てくるだろうというふうに考えております。最初に、戦略方針の内容について、できれば一つ一つ固めていきたいというふうな気がいたしております。

最初に、3ページごらんいただきたいと思いますが、新市の根幹事業の中のまず新ながおかが誇る技と人をネットワークする匠の国を創り上げると。独創企業が生まれ育つ都市ということになりますけれども、この戦略方針の三つの内容、この辺についてご意見をいただければと思いますけれども。

はい、お願いいたします。

委員（大地正幸）

これ10年以上前になるんでしょうか、長岡造形大学をつくる際に、長岡のイメージとして世界に発信できるデザイン都市を目指す。いわゆるデザイン産業等を基本として、特に東南アジア等に長岡のデザインありという形でまちづくりをしていくのがこの造形大学を設置する目的であるということが声高らかに言われたと思うんですが、その辺はこの辺のどの部分に入っているのかなということを大変気にしているところなんですけれども、その辺はどういう基本的な戦略に位置づけられているんでしょうか。

委員長（豊口 協）

ありがとうございます。

これは事務局の方から。

事務局（竹見）

全体に関係するんですけど、例えば4ページをごらんになっていただきたいと思いますんですけど、この戦略方針の1のビジネスモデル開発促進するためとあって、産学連携などの体制整備を図るということで、リーディングとしましては、産学連携の強化という形で、技術移転の促進とか、例えば造形大学のデザインをもっと民間の方に開放していくとか、そういうことも積極的に展開していくということでまとめております。

委員長（豊口 協）

よろしいですか。私立場上ちょっとご説明するのは。

委員（大地正幸）

豊口先生、立場上で話にくいだらうなと。いわゆる造形大学は、ほかの大学とは違いまして、長岡市が母体となってできた大学なわけですから、大変長岡市の意思がはっきりしている大学だと思うんです。それを一般的な一般論の中に含めてしまうべきではない。少なくとも長岡市を特徴ある一つの大きな施策の中でのものですから、その辺をひとつはっきり位置づけたらいかがかというのが私の実は意見でございます。

委員長（豊口 協）

ちょっと立場を少しずらしまして、今のご意見大変関係者としてはありがたいご発言だと思います。大学としても、この10年間そういう方向で非常に努力をしまいいりまして、実はデザインの専門大学というのは世界で長岡にしかないんです。たった一つのデザインの専門大学なんです。しかも、8年間でドクターまでつくったという記録は、恐らく文部省の中にはないだろうと思うんです。そういう点で、デザインを単にアートの世界じゃなくて、サイエンスの融合体としてデザインをとらえるということ、今盛んに言われています環境問題、エコロジーの問題等も含めて、実はカリキュラムが全部最初に組まれておりまして、その当時の文部省としても非常に実験的な大学として期待をされていまして、開学したときには、アジアの国々からデザインの大学院大学が長岡にできたということで、留学したいという問い合わせがたくさん参りました。そういう大学として実は長岡市の一つのご方針でできた大学でありまして、経営母体そのものは民間に移行されておりますけれども、基本的には長岡市がつくられた大学であるということは、これは変わらないわけでありまして。教職員もその気持ちですずっと今仕事はしております。

ですから、今大変ありがたいといいますが、貴重なご意見をいただきまして、我々が目途としていることと今度の新しく生まれる市がそういう基本的な考え方でもってバックアップしてくださるということになりまして、これは非常に人材教育という点についても、それから地元の企業との結びつきにつ

いても、非常にスムーズな展開がこれからできていくんじゃないかなという気がいたしております。アジア地域からの留学生もたくさん卒業しております、今台湾で環境問題を中心にやって大学で教えている学生は、実は1回生なんですけども、これ1番で出ていった学生なんです。それで、国土交通省のコンペのときも、日本人を相手に金賞をとった学生でありまして、今台湾の政府、大学から期待されて、台湾のエコロジー問題を中心とした都市計画をやっているという卒業生がおります。それから、香港に行った学生もありますし、上海で今ある企業のデザインランチの設立のために頑張っている学生等もおりまして、そういう意味では新しいデザインの専門大学としてのアジアにおけるというか、世界的な機能は10年しかたっていないので、なかなか成果は出てまいりませんが、できているんじゃないかなという気がいたしておりますので、できましたらそういうふうなご意見を今度の新しい市の計画の中に反映できれば一番ありがたいと思います。どうもありがとうございました。

はい、お願いいたします。

委員（小嶋弘一）

戦略方針の1というところですが、これは主語をずっと見ていきますと、行政がネットワークを構築するという形に読めてしまうんですけど、右側の方では形成に向けた支援ということが書いてあって、書き方としてはさまざまな分野の技術、人材等のネットワーク構築を支援するという、そういう書き方になるのではないかと。行政が全部旗振ってつくっちゃうということではないのではないかとという気がします、それいかがでありましょう。

委員長（豊口 協）

事務局いかがですか。

事務局（竹見）

こちらは、確かに行政がということなんですけど、この戦略方針は、10年間での戦略方針ですので、言葉で言いますと、まずは行政が関連団体とのコーディネート役を担って、その地域全体として技術、人材等のネットワークを構築するという言葉になります。ちょっと言葉足らずの部分がありますが、地域全体としてそういったものをつくっていくんだという意味です。

委員長（豊口 協）

よろしいですか。この戦略方針の内容が正しく実は一般の市民の方々に伝わり関係者に伝わらないと、後で誤解を生んでくる可能性がありますので、この辺は非常に重要だと思います。

委員（小嶋弘一）

戦略方針として、行政が構築し、リーディングとして支援するという、そういうスタンスでよろしいんですか。

委員長（豊口 協）

よろしいですか、事務局。

事務局（竹見）

戦略方針の今すべて行政が構築するというふうな形になっていますけれども、そういう意味合いにとられがちなので、これをもう少し、まずは行政がコーディネート役を担って、地域全体としてネットワークを構築していくという、そういう意味がわかるように変えていきたいと思っています。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

委員（小疇弘一）

そのリーディングのところの日本版ジョイントベンチャーネットワーク形成とあるんですが、これはジョイントベンチャーのネットワークを形成するのか、ジョイントベンチャーをつくることをネットワーク形成と言っているのか。そのあたりはいかがなんでしょうか。

委員長（豊口 協）

これはいかがでしょうか。

事務局（竹見）

これは、ジョイントベンチャーをつくっていくということです。ですので、これも言葉を整理していきたいと思っています。

委員長（豊口 協）

はい。

委員（小疇弘一）

済みません、たびたび。それともう一つ、前回も出たかもしれませんが、横文字が非常に多いという感じがあって、今日も用語解説が出ていますが、横文字を使うときは、横文字でなければなかなかニュアンスが伝わりにくいというときに使った方がいいんじゃないかということがあって、例えばワークショップなんていうのは、日本語に直すと非常に難しいので、ワークショップというふうに使うと。それがその後のところでも、アントレプレナーとか、訳を見ると、起業家一文字で済んでいるところがわざとこういう横文字にされている意図がちょっとよくわからなくて、このあたりはなるべく日本語でかみ砕いて説明するというその方がよろしいのではないかなというふうに思っています。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。できるだけ横文字を使わないで日本語でやるという基本方針はこれ変わっていないと思うんです、私も。そういう意味で今のご指摘は改めてもう一度確認をするというふうにしたいと思います。

最初の地域らしさ価値の独創企業が生まれ育つ都市、これよろしいですか。基本的には、この戦略方針の1、2、3、これをまずご確認いただきたいと思うんですけど。

はい。

委員（佐々木保男）

一番下のこれSOHOオフィスですが、スモールオフィス、ホームオフィスの、そのインキュベーション施設の提供というのは、これは新市でそういう施設をつくって、民間の人に提供しようということですか。それとも例えば今中心街の空きビルがありますが、そういうところを利用して市が借り上げて提供するということですか。

委員長（豊口 協）

これはいかがでしょうか。

事務局（竹見）

いろんなケースが考えられると思いますけれども、こういった高速通信網を備えたオフィスをまずは中心市街地かもしれないけれども、いろんなことをこれから検討していくということになります。

委員（佐々木保男）

計画だと思っんですけど、この高速大容量情報通信網というのは、かなり莫大な金かかるんでしょう。

事務局（竹見）

こちらの戦略方針の3なんですけど、これは工場なんかでデータを送受信するときは、こういった大きな大容量のデータが送受信されますので、これも産業地域としてこれから長岡が環境整備していくためには、こういったものが必要だろうということです。

委員長（豊口 協）

今世界でいろんな動きがたくさんありまして、少なくともこの戦略という点からとらえると、世界の進歩におくれてはならないという一つの視点があると思うんです。そういう点から考えますと、確かにややおくれをとっているような分野も多々あると思いますけれども、そういう分野をもう一度分析し直して、それにおくれないような体制をつくっていくという、これが新しい市の一つの姿ではないかというふうな期待感といいますか、努力の目標等もこの戦略の中に入っているというふうに私は理解しております。このリーディングとしての取り組む施策のポイントにつきましては、これはまだこれからいろいろというんなご意見がたくさんあるだろうと思います。ですから、これはさらに時間をかけて、ご意見をいただいいていかなければならないと思いますけれども、この戦略方針に何か欠けていることがあると非常に問題があるというふうな気がいたします。既にご了解いただいております独創企業が生まれ育つ都市という分野になりますので。

はい。

委員（米持昭次）

これは、新市将来構想から来ている将来のビジョンになるわけですけど、戦略方針というのは、この考え方は合併後10年間にやっていきたいというのが基本になっているわけですね。10年間で終わらんのもあるかと思いますが、主には10年間でこういう新長岡市をつくっていきたいという計画とい

うふうに解釈してよろしゅうございますか。

委員長（豊口 協）

それはよろしいですね。

事務局（竹見）

そのとおりです。

委員長（豊口 協）

はい、お願いいたします。

委員（野田幹男）

一つ基本的なことを確認、お聞かせいただきたいんですけども、まず資料2の表紙です。新市建設計画登載事業の整理について、ここでいう登載事業、それから2ページに登載事業整理作業の流れというふうに位置づけてありますが、これはそれぞれ6市町村の皆さんから出てきたものを柱別に分類して、さらに事務局が大所高所から位置づけを考えた、こういうふうに理解してよろしいんですか。

事務局（竹見）

こちらの大きな流れとしましては、要するに各6市町村の事業調書、それから分野別分科会の方で事業区分して、それを最終的にはワーキング、いわゆる企画、総計、それから合併担当のワーキングの方で整理してきているということです。戦略方針につきましても、分野別分科会の方でどういうことを戦略として考えていったらいいかということを出していただいて、それをワーキングの方でまとめてきたということです。

委員（野田幹男）

それといま一点は、この2ページの新市の根幹事業、（ハード・ソフト事業）となっておりますが、ここで見る限りリーディングプロジェクトとしての取り組みの中では、どれがソフトでどれがハードだというのは、若干わかりにくいんですけども、これは事務局とすれば、どのような考えで、これは相当のボリュームありますから、我々新市の将来計画の中でみんな対応していただければ一番結構なんだけれども、そうそう一気にというわけにはまいらんとするわけですけども、その辺はこれからの会議を通じて具体的になっていくわけでしょうか。どういうふうにお考えでしょう。

事務局（竹見）

今回リーディングプロジェクトということで、2ページの一番下にご覧いただけますように、まずは合併後3年程度までにいわゆる着手、一定の成果を得ることなんですけれども、実現できて、そういった新市としてやっていけるという期待感を醸成するハード、ソフト事業ということで、一定の成果を得るという意味では、すぐにハードの整備はなかなかできないものですから、まずはそういう一つ一つ段階を踏んでいって、一定の成功体験といいますか、そういったものを一つ一つ重ねていくと。今回のリーディングとしてご紹介している施策の中でも、ハードに当然結びつくものも書いてございます。

委員長（豊口 協）

ということですが、よろしいですか。

委員（野田幹男）

ちょっと読みにくい部分がありますけれども、頭の回転鈍いから。

委員長（豊口 協）

非常にこの内容について、これはこのときにやるんだという一つのはっきりした計画書というのはこの後さらに詰めていかなくちゃならないと思うんですけれども、10年間かかってこういう市にするんだと、こういう地域にするんだという多くの市民の方々の期待感、希望というものを整理して、この中に記載していくということがまず今の仕事なんだろうと思うんです。それを今度新しい市が生まれた段階で、その中のどれとどれを具体的に展開をしていくのかというふうな実際の展開というのが新市が生まれた後にそれは行われてくるだろうと。新しい市が生まれることに対して、市民の声をとにかく提起しておくということが非常に重要なだろうという気もするんです。その中で、どれとどれにプライオリティーを与えてどうするんだということは、今後小委員会ないしは法定協議会の方で決めていくんだと、こういうことになるだろうと私思いますけれども、ですからこの小委員会としては、新しい市民の方々の希望をできるだけ具体的にないしは内容をある程度はっきりさせて次の市、新しく生まれる市に対して提案をしていくということが機能だろうというふうな気がしております。

じゃ、ちょっと時間的なこともありますので、次に移りますが、次の4ページごらんいただきたいと思います。新しいビジネスモデルというところですが、戦略方針が二つございます。ここには、先ほどご指摘いただきました産学連携なんかの問題等も併記されておりますので、これはさらに今後具体的な展開方法がまた提案されていくだろうという気もいたします。次のその下の 3、市民チャレンジャーの成功と雇用という項目のところ、これもあわせてひとつご意見をいただければと思います。よろしいでしょうか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

じゃ、次の5ページをごらんいただきたいと思います。これは 4、未来のエジソンを生む人材教育・人材育成の推進、このエジソンという言葉は前の任意協議会のときもいろいろとありましたけれども、これは残っております。ここでは二つの戦略方針が書かれております。これはよろしいですね。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

じゃ、次に地域らしさの価値の 、元気に満ちた米産地、この 1でありますけれども、新ながおか元気印ブランド、これはいろいろと前のときにもご意見等をいただきまして、議論を非常に深めたところでありますけれども、戦略方針としては二つ提起されております。今までも非常に歴史あります長

岡地域の食文化といえますか、そういうことに対する一つの新しい展開をここで提起しております。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

続きまして、次のページの6ページですが、おいしさと安全・健康をキーワードとする「新ながおか料理」、この点についても随分たくさん前の段階でご意見をいただいております。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

その下段になりますが、3、これは環境問題が中心になっておりまして、ご意見もいただきました。特にここに書いてありますけど、蛸が舞うということ、それから人の豊かな営みが展開する食文化と農業文化とのコンバインといえますか、それが一体となった本当に新しい意味でのユートピアを生み出したいんだということです。今まで農業にしても、いろいろ問題がありましたけれども、そういうものを解決して、本当に人間を中心というか、すべての生物を中心とした食と農の環境を整備していこうということになります。これもよろしいですか。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

じゃ、次の7ページをごらんいただきたいと思いますが、「生きる楽しみ」「育つ喜び」が実感できる生活環境の創出、これも今地球規模で問題になっております環境問題、そういったものをベースにして、長岡地域にひとつ新しい生活文化みたいなものをつくっていかうではないかということが議論されて、こういう形でここに記載されております。この世代がつながる安住都市という言葉につきましても、この前のときにはいろいろとご意見がございましたけれども、世代がずっと長い一つの歴史を通して、本当に住みやすいまちをつくっていくんだということで、この言葉が残されてまいりました。はい。

委員（今泉 實）

今検討されている中で、開かれた市議会の促進という文字が入っているわけでありましたが、下に若干の説明があるわけですが、ということは、逆に言うと今開かれていないように聞こえてくるんですが、これはいかがなものか。どうですか、事務局。ほかのところは、最高の文言で、本当に新市にふさわしい言葉が入っているんですが、私はこれ見ると、何か私も議会人だから、今役に立たないみたいな皮肉った考え方になります。

事務局（竹見）

ぜひその辺またお知恵を拝借していきたいなと思っております。この辺は直していきたいと思っておりますので。

委員長（豊口 協）

これ確かにちょっとまずいです。

ありがとうございました。

はい、お願いいたします。

委員（高野徳義）

この「元気に老いる」熟年力とあるんですが、このリーディングとして取り組むポイントの中ちょっと弱いような気がするんですが、老人ホームというか、その辺の増設というか、そういうのを入れて欲しいんです。なぜかというと、私どもの地域老人世帯が多いわけですから、なかなか体が悪くなっても施設へ入らないと。当然村に施設がないわけだからそうでしょうけれども、新市になったら、そういうのに入るのも緩和というか、より入りやすくなる。そういう介護予防、介護予防と出ているんですが、そういう施設の充実も少しは入れてもらいたいと思います。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。この元気に老いるという言葉、これずっと使われておりますけれども、よろしいですか。何となく私は気になっているんですけれども。

はい。

事務局（高橋）

少し前段の説明の中で説明不足のところもあったかと思いますが、戦略方針の右側にリーディングとして取り組む施策のポイントというのが書いてございますが、今の段階ではまさに施策のポイントということでございまして、具体的に施策の内容が出ておりませんので、恐らく今のようなお話が出るのではないかと思います。戦略方針をまず固めたいというふうに事務局としては考えておりまして、戦略方針が固まりますと、当然のことながら施策のポイントについてももちろんご議論をさせていただきますが、具体的な施策が検討しやすくなってくると、こういう順序で考えております。それからさらに、これからこの戦略事業の部分の説明が終わりました後に、いわゆる生活基盤整備のナショナルミニマムの説明をさせていただくんですが、そういった中にいわゆる従来から、それからいわゆる生活基盤として整備をしていかなければならない施設的な部分は、そちらの方にも載っておりますので、その部分まで全部説明がいきますと、少しわかりやすくなると思っておりますので、よろしく願いをいたします。

委員長（豊口 協）

ということで、先ほども最初にご説明しましたけれども、戦略方針、これは一応今日は確認をしていただければという気がいたします。

じゃ、次のこの7ページの下段ですが、「元気に老いる」熟年力を活かしたまちづくりの推進、戦略方針は2項目ございます。これもよろしいですね。

はい。

委員（五十嵐徹）

戦略方針1のリーディングの一番下です。健康増進施設展開のための調査とあるんですが、調査というのは要らないんで、展開で区切ったらどうでしょうか。これは健康増進施設、そんなに調査までしなけりゃならんのかという、よほど全国に例のない世界的なものを駆けめぐって真新しいものをやるのかという、そうじゃないだろうと思うんです。かなり食生活とか、そういう日常生活習慣病、そういうものの地域性を考慮した上での、それから年齢構成、そういうものを医療の関係者と相談の上でのこういうものが必要なだろうと思うんで、調査なんていうのはやらなくても、展開するんだと、はっきり切ったらどうでしょうか。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。先ほども事務局からお話がありましたけれども、この右側の四角の中に入っています内容につきましては、今後さらにいろいろとご意見をいただきながら整理をしてまいりますので、今貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

それでは、次の8ページをごらんいただきたいと思います。地域らしさ価値の、これで地球を想う「未来人」育成・発信地域の創出ということで、戦略方針は三つございます。これも随分議論をされた内容でありまして、この戦略方針三つ、特に問題はないだろうという気がいたしますが、この3番目の伝統文化継承・発信、この辺は相当いろいろと議論をいただいた内容でございます。それぞれの地域が今まで培ってきた伝統的な文化、事業、そういったものは貴重な先人の残してくれた遺産として今後も継承していこうということをはっきりと出していきたいと、こういうことでございます。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

次の9ページになります。4で、子育て、教育の問題ですが、これもよろしいですね。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。では、次の10ページをごらんいただきたいと思います。1、地域資源を活用した新ながおかコンベンション・シティの創設ということで、これ国際社会に対応できるだけの必要性というものをうたっております。これも問題ないと思います。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

11ページをごらんいただきたいと思います。すべての市民が「新ながおか親善大使」であるということで、国際交流を促進していこうということでございます。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

その下でございますが、「暮らしたい」「働きたい」「遊びたい」・・・魅力あるまちを目指すという

ことで、これが将来の新しい市を構成する市民に対する一つの展望ということになります。

はい。

委員（佐々木保男）

済みません、ちょっと戻って恐縮なんですけど、10ページなんですけど、戦略方針の1で、この特色あるふれあい交流活動を追求する（リアルコミュニケーション）ですが、このリアルコミュニケーションという言葉必要ないんじゃないですか。

委員長（豊口 協）

いかがでしょうか、事務局。ここで英語に切りかえて置きかえるとちょっとまた意味が変わるような感じもしないでもないんですけども。

事務局（竹見）

ここは削除しておきます。

委員長（豊口 協）

ありがとうございます。私も時々癖がありまして、日本語で言って、すぐ英語に言葉を置きかえてしゃべったりするということが日本人の今の非常にこれ特徴になっておりまして、外国の方も非常に不思議な顔をされる場合があるんです。発音が違っていたり何かしまして、気をつけないといけないと思います。ありがとうございました。

はい。

委員（今泉 實）

ちょっと前の方に戻りますが、5ページの地域らしさ価値 の元気に満ちた米産地、この中のリーディングとしての安全・安心な食を提供する環境づくりの中で、2番目の新たな農業経営支援化の下の欄で、新たな農産物・加工品の開拓・販売促進の支援と、こうなっておりますが、でき得れば安心、安全な食を提供する中で、農産物、そして言葉は適当でないと思いますけれども、研究所とか、あるいは研究機関とか、そういったもののハード、ソフトになりますけれども、何か文言がないものかなと。特に私も中之島農村地域でありますので、いろんなこの中で堆肥プラントを造成するとか、いろんな文言が入っておりますが、非常に農地が整備されて、圃場が進んでおります。ところが、新潟県、特にこの地域は非常に湿度の高い地域でありますので、何か安心、安全な食を送るためには、いろんな研究を求めていかなきゃならない。そして、その裏づけが消費者にわかるというようなものの研究機関的なものが必要だなと、こんな思いがしたので、申し上げました。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。これは、確かに必要なことで、県の試験場等もありますので、これは十分に生かしていく必要があると思います。ありがとうございました。

それでは、事務局からさっきお話ありました12ページ、13ページ、これちょっと説明をしていただき

たいと思います。

事務局（竹見）

12ページ、13ページからなんですけど、ナショナルミニマム事業、いわゆる安心感を醸成していく事業です。こちらに出ています各市町村の方で今まで継続されている事業もございます。今まで提案していただいた事業をワーキングの方でまとめたものを施策のキーワード、それから施策展開のポイントとしてまとめております。例えば居住環境でいえば、生活交通の継続確保とか、それから斎場の整備あるいは墓園の整備、そして道路整備でいえば、生活関連道路の整備とか、それから福祉ですけれども、先ほどお話ありましたが、介護老人施設の整備、それから子供の教育であれば、学校施設の充実、耐震性の補強など調書としては出ています。それから、文化施設、拠点施設ということで、体育館のそういった施設の整備なども考えていくということで、事業としてはこういった形で取りまとめております。

それから、合併に伴い必要となる事業ということで、少し訂正をさせていただきたいんですけど、施策キーワードの一番上で、「合併を記念して」と書いてありますが、これを「合併を機会とした取り組み」という形でご訂正を願います。こちらの合併に伴って早期にやっけていけない事業でございます。例えば防災等で申し上げますと、移動用の防災無線とか、周波数が違っている場合とか、消防等もございますけれども、そういったものを統廃合あるいは災害情報システム等を順次整備していく必要があると。あるいは防犯灯でいいますと、今まで合併前は、旧市町村ごとの防犯灯が整備されていない部分を早期に整備していったらどうかとか、それから施策キーワードの一番上になりますけれども、観光施設とか、公共施設へのサイン計画とか、それから情報化の促進で、一番下になりますけれども、促進ということで、電子市役所あるいはインターネット等の情報通信の推進をしていく必要があるということで、事業の方は取りまとめております。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。これは、それぞれの市町村で使っているコンピューターとか、そういうのは全部違うんですか。システムは違うんですか。

事務局（北谷）

市町村ばらばらではないですけれども、たまたま同じ市町村はあります。

委員長（豊口 協）

ああ、そうですか。これも大変ですね。

12ページ、13ページ、いろいろ項目が出ておりますが、これはとにかく即やらなきゃいけない問題だと思いますけれども、この中で市民サービスに関係あるものが非常に多いんですけれども、これはとにかくスタートの段階ですべて整備されていなければならぬぐらいの重要な項目だと思います。この内容については、これからさらに細かい具体的な展開がそれぞれの関係部署で検討されまして、この小委

員会の場に出てくるだろうと思いますけれども、今までにこういうことが既に検討されて、確認されているということでもあります。

はい、お願いいたします。

委員（鯉江康正）

ちょっと何か僕だけが感覚が違うのかもしれませんが、これずっと今日議論してきた戦略方針の中で、確かにベンチャーを育成していくとか、いろんないいことは書いてある。そのこと自体には全然抵抗はないんですけれども、本当にこの地域に例えばお金を落としてくれる施設とか、雇用をちゃんと維持できる。雇用が維持できるということは、人を維持できることです。地域が結果的には地域間競争に負けないという意味で言えば、そういう戦略方針でもないんですが、実は重点実現項目のもっと上にある部分なのかもしれないんですが、何かそういうのが非常にないなという感じを受けたんです。先ほどからのタイミングで、どこで話をしたらいいのかがちょっとわからなかったものですから、あれなんですけれども、だからそういう面で言えば、例えば国際交流都市ということについても、実際には交通の利便性高まって、長野なんかいい例なんです。東京から来てみんな日帰りで帰っちゃうと。そうするとコンベンションセンターつくって、エムウエーブをうまく生かして、人がいてくれるような仕組みをつくるとか、あるいは新潟県で言えば、例えば町村はご存じのようにみんな人口減っているわけです。ところが、大和町だけ何とか頑張っています。これ何かというと、高校と大学の誘致なんです。ということは、学校を誘致するということは、豊口先生よくご存じだと思いますが、365分の250の力があるんです。ところが、外から1回だけ人を呼んでくるというのは、365分の1なわけで、そういう意味で言えば若者の雇用とか、福祉に絡めたような高等教育機関を考えると、そういうようなものが何かどこかに入ってほしいなという感じをちょっと受けるんですけれども、戦略方針とも違うし、そうかといって、戦略方針もなしにリーディングとして取り組む施策とか、施設としてぼんと入れるのも何か変ですから、何かそこをちょっと工夫をしていただきたいというのをお願いしたいんですけれども。

委員長（豊口 協）

私の考え方を申し上げますと、これを要するにベースにして、新しい市が大きな意味での戦略を考える。具体化するためには、可能性を求めていくためには、新しいこの上にのっかる戦略をつくらないといけないわけです。それを今度の新しい市ではやらなくちゃいけないという、そういう戦略を立てるための資料として我々が出していくという段階の仕事だろうと私は思っています。ですから、その中で幾らできないとか、不可能だというふうなことについては、ここで整理をしておかなきゃいけませんけれども、これだけのことは市民が期待しているんだからやってくださいよと。やるべきなんですよと。やらないとだめですよというふうな内容についてここで整理をして出していくだろうと。ですから、新しい市がスタートしたときに、戦略室であるか、何室かわかりません。参謀本部かどうかわかりませんが、そういうものができて、提案された内容を一つ一つ具体化していくというふうなことになっ

ていくんだろうと思うんですけども、これは私の私見でございます。

事務局いかがですか。

事務局（高橋）

戦略方針自体がかなり広く構えをとっておりますので、まさに今の鯉江委員のお話はこれから今施策のポイントという形で整理をしておりますけれども、施策ポイントがポイントというよりも、もう少しはっきりとした施策というようなことでご議論をいただく段階で出てくるお話だと思っておりますので、その段階でぜひまたご意見、ご議論をいただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

委員長（豊口 協）

はい、どうぞ。

委員（鯉江康正）

ぜひ忘れないで。というのは、何かきれいな絵にかいたもちだけじゃだめだと思うんです。生臭いところもなければ金ないのに生活できないというのが一方であるわけですから、そこは無視しないようにしていただきたいなというふうに思います。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。これ段階を追って行って、右側のリーディングとして取り組む施策のポイントというところが俎上にはっきり出てきまして、これを皆さんのご意見でまとめる段階になりますと、非常に生臭い問題等も出てくるだろうと私思いますけれども。

はい、お願いいたします。

委員（野田幹男）

先ほど申し上げる中で、これがいわゆる本論に入る前の序章だと、こういうことですから、今日のこの計画そのものはすばらしいと思うんです。すばらしいと思いますが、今も先生が言われるように、今度は本論に入っていくと、合併後3年の中で合併してよかったと言い得るような新市の市民が感覚を持つ、そういう大きいプロジェクトと申しますか、リーディングプロジェクトがこれから出てくるであろうということが想定されるわけでありまして、ぜひひとつ期待感の持てるそういう内容を出していただきたいというふうに考えております。よろしく願いします。

委員長（豊口 協）

はい、どうぞ、お願いいたします。

委員（小嶋弘一）

この戦略的事業の組み立て方なんです、地域らしさ価値から始まって重点実現項目、戦略方針、リーディングという縦軸の整理の仕方は非常に大事だと思うんですが、その次に大事なのは、これをどう横につないでいくかというあたりかなと思っていて、それを効率的に実効が上がるように、そして

そこで行政とか、住民とか、事業者がどう連携してかかわっていくかという、そういう横の仕組みを構築するという、これこそが多分高度化という一番大事なところかなというふうに思っているんですが、そういうものがどこかに記述されてくるのかどうかちょっとわからなくて、このリーディングにいくと、かなりあちこちに同じような言葉が出てきて、それは多分みんな連携していったって、初めて実効性が上がる。あるいは効率的な動きになっていくんだらうと。そういうことがこの新市においてとても重要だという記述がどこかに必要なという感じがします。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。おっしゃることそのとおりだと思います。我々いつもこのペーパーを見ていますと、平面的にしかちょっと理解できないところがあるんですけども、これを立体的に変な言い方ですが、X軸とY軸とZ軸でもって空間を意識しますと、それぞれのポイントといいますか、施策の内容がリンクして見えてくると思うんです。そういう今ご提案だと思いますので、その辺は具体的にもう少しわかりやすくできるような縦と横と奥行きをつながりのある説明といいますか、提案をしていくべきだらうと思います。

はい。

委員（大地正幸）

後ろへいたり、前へいたりで大変申しわけないんですけども、この地域らしさ価値の、世界につながる安住都市というのは、これ8ページ。とりあえず8ページというか、7ページでもいいんですけども、8ページを開いてみていただくといいんですけども、こういう表現でなくても、何か違和感があるんです、安住都市というのは、ある面で。日本語としていかなものかなと、安全、安心というふうに書いてあったて大した長くはならないわけです。

それからもう一つ、地球を想う「未来人」育成・発信地域の創出、同じことで9ページ見ますと、「子育て・教育」の分野で日本のモデル地域となる「21世紀の米百俵プログラム」の開発・推進と、こっちは日本語になっています。何かこっちの8ページの重点項目 3、これは本当に日本語かいなと、読めるかなと。いわゆるこれは農村部の人たちもみんな読むことを前提にしなければいけないわけですから、これは基本構想からの問題もあるかなと思いますけれども、もっとタイトルもわかりやすくつけるべきじゃないのかなというふうに思いますので、一応ご提言しておきます。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。最終段階になりますと、どなたが読んでくださってもこちらの意向が正しく伝わる必要があると思いますし、そのための努力はこれからも惜しんではいけないだらうと思います。特に日本語というのは割合新しい言葉をつくりやすく、スポーツ紙なんかは、そんな言葉ばかりで埋まっているわけですけども、いろいろ問題があると思います。この委員会としては、気をつけなきゃいけないと思います。ありがとうございました。

はい、お願いいたします。

委員（五十嵐徹）

非常にさきへ戻って恐縮なんですけど、6ページの戦略方針一番下ですが、元気に満ちた米産地の方針の2のリーディングのところ、里山再生がありますが、これは言っている意味わかるんですけど、そのほかに具体的にもう少し明らかにしていただきたいというのがあるんですけど、例えばグリーンツーリズムなど体験実習の場づくりとか、こういう都市から来た、また郊外から、都市部から、そういうような人たちとの多面的な交流的な場づくりという交流というのは別の項目へ入りますけれども、グリーンツーリズムなど、実習体験の場づくりというものも項目に入ったらどうなのかという、農村部と都市とをつなぐポイントになるんじゃないだろうかというふうに思います。後の方で出てきます11ページの「暮らしたい」「働きたい」「遊びたい」、こういう部分との関連もあるんでしょうけど、これはどちらかというと、駅前とか、そういうような文字の表現ですけれども、これに対抗する意味で言っているんじゃないですが、広大な森林の持つ多面的な機能というものを都市との体験の中に浸透させるには、こういう項目もあっていいんじゃないかという考え方です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。おっしゃるとおりだと思います。

それでは、今日確認をもう一度しておきたいのは、それぞれの柱に対する戦略方針、それぞれ2項目、3項目、1項目等々ございますけれども、この戦略方針については、こういう方針でいくということで確認をさせていただきたいと思いますが、この後の施策のポイント、リーディングとしての取り組む施策のポイントにつきましては、これからさらにいろいろご意見をいただいて整理をしていきたいと、こういうふうに考えておりますが、よろしいですか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

お願いいたします。

委員（伊佐文也）

確認をいただいた中で、今後具体的な事業が示されるものと思われそうですが、3カ月の中でかなりいろいろな事業を審議といいますか、が出てくると思うんですけども、そのスケジュール的なものは今のところどのような考えでいかれるでしょうか。

委員長（豊口 協）

この前ちょっと概要のスケジュールを事務局からご説明していただきましたけど、もう一度簡単に説明をしていただけますか。

事務局（竹見）

小委員会のご検討と同時に、今日は振興局長さんもいらっしゃっていますけれども、新潟県との協議も当然必要になってきます。本日戦略方針もある程度ご議論いただいた中で、本文はこれからまたさらに本日の資料1をこれをまとめていって、そういった作業と並行して進めていきたいなと考えています。今スケジュール的には協議会の方が7月上旬と下旬ということで、今ありますけれども、それまでにある程度建設計画の方をまとめていっていただきたいなということで考えています。ですので、これから具体的な事業というか、それから財政的な検証も必要になってきますので、これを来月ぐらいにある程度ご議論いただければなと思っています。

委員長（豊口 協）

ということです。よろしゅうございますか。これから今日局長もおいでになっていますけれども、県とのいろいろ微調整が非常にたくさんあると思うんです。それについては、相当事務局も時間をかけてやっていくことになるだろうと思いますけども、具体的な施策になればなるほどそういう調整が必要になってくるだろうと理解いたしております。

はい、お願いいたします。

委員（米持昭次）

小委員会の役割は、新市建設計画をつくるということですから、ですけれども、最終的には財政問題というのが出てくるかと思うんですけれども、その建設計画をつくる段階で、財政シミュレーションとの関係、これはどういうふうに考えていくべきか。それとも事務局の方ではそういう財政的な問題をこの小委員会でも検討するような機会があるのかどうか、お聞きしたいと思います。

委員長（豊口 協）

お願いいたします。恐らく関係部署で財政的な問題については、相当シビアな議論をしておられると思いますけれども、情報としてはこの委員会には出てくると私は思っております。いかがですか。

事務局（高橋）

財政計画につきましては、当然建設計画書の一部ですので、そういった意味合いでは当然小委員会の方にお諮りすることになりますが、かなり細かい技術的な部分がほとんどでございますので、ある程度事務局の方で整理をさせていただいたものをお示するというような基本的な考え方で進めたいというふうに現時点では考えております。今現在の財政計画の状況ですけれども、今進めておりますのは、まだお示する段階までいっておりませんが、新市全体で10年間の総額といいますか、全体の財政の動きがどうなるか。それを今やっている最中ですので、そこが固まってきましたと、まだ事業との関係であるとか、細かい部分の調整はまだしにくい、今まだそういう状況でございますので、その辺も進みぐあいにつきましては、順次お話をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

委員長（豊口 協）

よろしゅうございますか。

それでは、今日は本当にいろいろとありがとうございました。内容がだんだん煮詰まってまいりますけれども、これからが実は正念場だろうと私は思っておりますけれども、今後ともよろしくひとつお願いいたします。

どうもありがとうございました。

委員（二澤和夫）

大変ご協力ありがとうございました。正直言いまして、私もこの戦略方針というのは、これでいいかといって、二、三日前に見せられたんですけど、なかなか抽象的な表現でございまして、判断しづらい部分もあるわけですが、今度具体的な事業がだんだん出てきますと、戦略方針があつて、ポイントがあつて、事業があると、左から右へ考えていくのが理論的にそうなんですけれども、若干言葉のぶれが出てくるのかなというふうな気もしておりますので、今日ご確認いただいて、これでいいということになったんですけれども、その辺の多少の修正はひとつご了解いただきたいなというふうに思っておりますので、事務局にかわりまして、一言お願いをさせていただきました。

事務局（高橋）

事務局の方から少しお話をさせていただきますが、次回の法定の協議会が28日金曜日の日にございまして、その冒頭で本日の小委員会の協議経過といいますが、進捗状況を報告をさせていただきたいというふうに思っております。ただ、今日はかなりご意見をいただきましたので、今日いただいた意見を我々事務局の方で取りまとめをしまして、できるだけまとまった形で協議会の方にはご報告をさせていただきたいと思っております。なお、建設計画書の素案の方ですが、これ今まで目次のみを協議会の方に出しておりましたけども、かなり整理もできてきておりますので、もちろん今作業途中という形になりますが、工夫をしながら協議会の方にもご報告をさせていただきたいというふうに考えております。

それから、近々の小委員会のスケジュールでございまして、6月の16日の日が次回の次の協議会になっておりまして、その協議会の前に小委員会を開催したいというふうに考えておりますので、スケジュールが決まりましたらすぐにご連絡をさせていただきますが、そういう形で1回必ずあるということをお願いしたいというふうに思っております。

事務局の方からは以上でございます。

委員長（豊口 協）

それでは、今日はどうもありがとうございました。

（散会 午前11時30分）